

保護者の皆様へ

道徳の授業の様子の一部を紹介します。ご家庭で、お子様と授業の感想など話し合っていたけると幸いです。

1・3年生「宮前SCの出前授業」

本校に来ていただいている宮前SC(スクールカウンセラー)が7月10日に1年生、17日に3年生に授業をしてくださいました。

1月1日の大地震で、大きな環境の変化があった生徒もいました。それにより、自分では気づかぬうちに「ストレス」を抱えており、それらを対処する方法等を宮前SCから伺うことができました。また、自分のストレス解消法をグループで共有することで、新たな発見を見いだす生徒もいました。

2年生でも、7月18日に藤田SCによる出前授業を実施しました。



トラウマは1度の怖い思いを体験したことになるので、すごく怖いと感じました。友達が言っていた対処法をやってみようと思いました。 1年生

リラクスの仕方や、嫌な思い出を忘れる方法が色々分かり、とても助かりました。 1年生

トラウマは悪いことばかりしかないと思っていたけど、トラウマと少しずつ向き合っていくことで、自分の成長にも繋がるということが分かったので、私も、少しずつトラウマと向き合っていこうと思った。 3年生



距離をとることや、好きなことを考えることが大切なのだと授業を聞いて分かりました。 1年生

能登半島地震により、日常生活の中で少し揺れただけで恐怖を感じることは多かったけど、今日の授業を受け、たくさんの対処法を知ることができ、実際にやってみようと思った。 3年生



C(12)

社会参画
公共の精神



2年生「消防団」

京都市内で活躍する、中京消防団明倫分団。教材は、理髪店の店主の傍ら、団員を務めている巻出さんへのインタビューで構成されています。巡回が大きな活動の一つで、眠いときや寒いときなど、つらいことがあっても活動を続けていくのは、「町の皆さんの安全を守りたい。」という気持ちがいちばんにあるからだと言います。祇園祭の山鉾など、文化財を守っていく役割も大きく、月1回の訓練も欠かせません。町の皆さんから「ありがとう。」と言われたことを誇りに、活動は続けられています。

京都市内で活躍する消防団の活動を記した文章から、社会の一員として社会に関わっていくには、どのような思いが大切かを考えました。また、今回は志賀町学校教育モデルのローテーション道徳の取組として、板岡校長先生が授業を行いました。

社会の一員として地域や社会に関わっていくには、自分が地域の人であることを認識して「地域を大切にしよう」と思うことが必要である。

人のことを思いやる気持ちであったり、その地域がどうしたらよくなるかを常に考えることが社会の一員になる上では求められているのだと思った。



「著者の方からの手紙」

4・5月の道徳通信でも紹介しましたが、2年生の教材として「いのちの音」を使わせていただきました。そして嬉しいことに先日、その著者である林佐知子様からお手紙をいただきました。紹介させていただきますので、ご一読ください。



はじめまして。私は、光村図書の中学2年道徳教科書に掲載されている詩「いのちの音」作者、林佐知子と申します。突然のおたより、大変失礼いたします。

インターネットを検索したところ、富来中学校の「道徳通信令和6年5月17日」に気がつき、拝見させていただきました。とても見やすく、読みやすいですね。授業風景の写真があり、また、生徒の皆さまの心温まる貴重な感想もあり、大変うれしくなりました。こうして学んでいただけたことに感謝し、励まされる思いでおります。心からありがとうございます。

志賀町といえば、能登半島地震で大きな被害が出ている地域ではありませんか？学校、生徒や保護者の皆さま、先生や職員の皆さま、そのご家族など、ご無事でいらっしゃいますか？

大きな地震に見舞われ、怖い思いをし、ご不便な生活を経験しながらも前に進んでいらっしゃる富来中学校の皆さまに、詩集「いのちの音」をお贈りいたします。教科書掲載後、ようやく「いのちの音」をタイトルにした本が、去年秋にできました。私の宿題だった本です。どうかお納めください。

学んでくださった生徒の、そして先生に、どうぞよろしくお伝えくださいませ。住んでいる東京の空の下で、皆さまの笑顔をお祈りしております。感謝をこめて。

林佐知子